

感動の場 一点

『馬』

1963 年 小川原 脩 画

ギョロリとこちらを見る大きな目。ガッチリかみあったむき出しの歯。黒くて縮れたたてがみは誇張され、頭から不気味に垂れ下がっています。灰色で塗られた胴体にほとぼしる茶色の絵の具は、体毛に絡みつく土や枯れ草でしょうか。前足は地面に刺さる棒のように単純な形で描かれ、馬体を支えるには貧弱な感じがします。腹の真ん中あたりをよく見ると、後ろ足の下描きがみられますが、それを塗らないままこの絵は完成しました。

なぜ小川原脩はこれほど大きな頭の馬を描いたのでしょうか。それは小川原が見る人の視線を馬の顔に向けたかったからではないでしょうか。あらためて馬の顔を見ると、むき出した歯茎に塗られた赤い色は恐怖心を与え、白い絵の具を上塗りして鋭く光るように見える目と歯に、誰もが警戒心をもつでしょう。小川原は幼少期に馬にほっぺをかまれて大騒ぎになったことがあります。それ以来、馬に対して畏敬の念を抱くようになりました。馬は臆病で優しい動物といわれていますが「うかつに近づくと痛い目にあう」ということを伝えたかったのかもしれません。

文：金澤 逸子（小川原脩記念美術館 学芸スタッフ）



倶知安機関区転車台

転車台（ターンテーブル）とは、蒸気機関車の進行方向を効率良く変えるための装置ですが、倶知安駅西側にある公園「くとさんパーク」の構内にも、転車台が鉄道遺構として残されているのをご存じでしょうか。

函館本線倶知安駅は、1904（明治 37）年に北鉄線主要駅として民営により開業しました。その後、倶知安機関区と名前を改め、函館本線や室蘭本線（胆振線）、岩内線が集中する重要な機関区となりました。

そこで大いに活躍したのが倶知安機関区転車台です。この転車台は、1957（昭和 32）年に電動式に更新された 20 ㌔級・3 点支持型と呼ばれる大型のもので、当時主力貨物機関車だった D51 よりも 2 ㌔ほど車体の大きい C62 にも対応していました。円状レールには雪よけが取り付けられており、豪雪地域ならではの特徴を備えています。最後は 1988（昭和 63）年 4 月 29 日から 1990（平成 2）年まで、夏季の体験列車として復活した「C62 ニセコ号」の方向転換のため稼働しました。

この転車台は、2030 年度末に予定されている北海道新幹線倶知安駅開業に伴い、周辺整備の一環として撤去も検討されています。倶知安の発展に大きく関わった鉄道遺構。どのように後世に伝えていくべきか、考えていかなければなりません。

文：小田桐 亮（倶知安風土館 学芸員）

転車台に関する写真や情報をお持ちの方は、ぜひ風土館にご連絡ください



C62 を載せ稼働中の倶知安機関区転車台（撮影日：1988 年 4 月 27 日）

ふる探訪 さと

491 回

展覧会のお知らせ

■第 1 展示室

小川原脩展「感動の場一点」

広報くっちゃんに 1998 年から続くコラム「感動の場一点」。小川原自身が名付けたもので、自身の作品解説からはじまり、学芸員たちが受け継ぎ執筆を続けてきました。小川原脩の代表作の数々を、「感動の場一点」でつづられた紹介文とともにご覧いただきます。

会期：開催中～5 月 12 日(日)

■第 2 展示室

〈おしゃべり美術館 2024〉対話鑑賞のススメ

会話を楽しみながら小川原脩の作品を鑑賞する展覧会です。友人と、家族と、おひとりでも、絵の中の出来事をひも解いてみませんか。おしゃべりキャラクターの「とりっちー」がご案内します。

会期：開催中～4 月 14 日(日)



アート・イベントのお知らせ

■土曜サロン

ギャラリー・トーク「新照明設備・お披露目会」

新たに第 1 展示室に導入した LED 照明には、調光調色機能がつきました。魅力あふれる空間演出が可能となる機能をご紹介します。

日時：3 月 16 日(土) 14 時～14 時 45 分

会場：映像ルーム・第 1 展示室（無料）※予約不要

お話し：沼田絵美（学芸員）

おとなの手しごと（26）「プラ板工作やってみよう」

プラ板でスタンドグラスのようなカラフルモチーフを作ってみませんか。

日時：3 月 23 日(土) 14 時～16 時

会場：ロビー（無料）お相手：金澤 逸子（学芸スタッフ）

定員：10 名※要予約、高校生以上、親子可

倶知安風土館のお知らせ

■企画展示「サンモリッツ姉妹都市提携 60 周年記念展」

倶知安町とスイス・サンモリッツ市が姉妹都市提携を結んでから、今年で 60 周年の節目を迎えます。風土館と役場を会場に、これまでの歩みとサンモリッツ市について紹介します。

会期：3 月 16 日(土)～10 月 27 日(日)

■エントランス展示「竹原文楽作のひな人形」

1965（昭和 40）年頃、岐阜県の人形師である竹原文楽が来町して作製したとされるひな人形を展示します。

会期：開催中～3 月 4 日(日)

■ご案内「転車台& SL『二つ目羊蹄』3D モデルを公開中」

記録のために今年度 3D 計測を行い、3D モデルを公開しました。冬季は見ることの難しい転車台と SL を、季節・場所を問わずご覧になれます（3D モデルは破損部を修復）。

ミュージアム 通信

小川原脩記念美術館 ☎ 21-4141

観覧料：一般 500 円（400 円）

高校生 300 円（200 円）

小中学生 100 円（50 円）

倶知安風土館 ☎ 22-6631

観覧料：一般 200 円（100 円）

高校生以下、美術館観覧者無料

開館時間は 9 時～17 時

入館は 16 時 30 分まで

※（ ）内は 10 名以上の団体料金

3 月の休館日 毎週火曜日

風土館のみ 6 日(水)（臨時休館）

第 1 展示室がリニューアル

少し長めの展示替え期間をいただき、1 月に小川原脩記念美術館の第 1 展示室照明改修工事を実施、当該展示室の LED 化が完了しました。

高機能 LED 器具の導入によって使用電力の圧縮はもちろんのこと、展示物の変退色損傷の低減などさまざまな効果があるのですが、やはり特筆すべきは、展示作品がよりハッキリと美しく、隅々まで均一に照らし出せるようになったこと。

壁面照明では明るさや色温度の調整も出来るように。

このリニューアルにより、スポットライト主体で落ち着いた雰囲気第 2 展示室や、令和 4 年度に UV カットフィルム施工が実施され、自然光を取り入れつつ作品展示が可能となったロビーと併せて、テーマに沿ってコントラストの効いた、メリハリのある展示が可能となりました。

この機会にぜひご来館いただき、その違いを体感していただけたら幸いです。

館長 福原 秀和



▲転車台(左)と SL(右)の 3D モデル